

# 新型コロナウイルス感染症に対する 日本赤十字社三重県支部の活動報告



## 県民の皆さまに向けた情報発信

### 「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！」ガイドについてのテレビ取材

日本赤十字社では、新型コロナウイルス感染症対応の一環として、「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」を作成しております。（ガイド詳細は裏面）

本ガイドは感染症によって生み出される「不安」や「差別」にスポットを当てたものですが、中井茉莉氏（伊勢赤十字病院 公認心理師）が執筆協力を行っていることから、三重県支部・伊勢赤十字病院がNHKの取材を受けました。

東日本大震災・平成30年7月豪雨（西日本豪雨）災害等で被災者のこころのケア活動にも従事した中井氏は取材の中で、「新型コロナウイルスには「病気」「不安」「差別」という3つの顔があり、それらはつながって負のスパイラルを生んでしまう。本ガイドが、負のスパイラルを断ち切るための一助となれば幸いです。」と語りました。なお、取材の様子は6月3日の「まるっと！みえ（NHK総合）」にて放送されました。



（NHKの取材を受ける中井氏）

## その他メディアを通じた情報発信

日本赤十字社の事業内容、医療活動・輸血用血液の確保をはじめとした新型コロナウイルス感染症への対応状況等について、三重テレビ(Mieライブ+)、FM三重(MIEレポート)にて情報発信を行いました。



（三重テレビの取材）

## ホームページ等での情報発信

新型コロナウイルス感染症への日本赤十字社のアクションや、SNSを通じた「#最前線にエールを何度でも」プロジェクト等の周知をホームページにおいて行うとともに、随時、各地区区分（市町）や青少年赤十字加盟校等への情報共有を行っています。

## 各赤十字奉仕団によるマスク作製

県内の赤十字地域奉仕団では、自宅や少人数で集まって手作りマスクを作製しています。

伊勢市地域奉仕団では、団員の家にあった布を活用し、上部（鼻）に針金を入れたり洗っても型崩れしないよう工夫しながらマスクを作製しました。

できあがったマスク計270枚は、福祉施設などで人と接する機会が多い伊勢市社会福祉協議会にお渡ししました。



（伊勢市地域奉仕団による贈呈）

## 活動へのご理解をよろしくお願いします。

日本赤十字社は、新型コロナウイルス感染症の治療および感染拡大防止のための活動に取り組んでおります。

### 協力方法

#### ○インターネットの場合

日本赤十字社三重県支部 HP 内「赤十字活動資金の協力方法」よりお手続きください。

右記QRコードまたは下記URLからアクセスをお願いいたします。

<https://www.mie.jrc.or.jp/entry/index.html>



#### ○郵便振替・銀行振込の場合

赤十字の活動資金は、各市町の赤十字担当窓口または三重県支部で受け付けております。

また、郵便振替、銀行振込などでご協力いただける方は、送金手数料免除の振込用紙がございますので日本赤十字社三重県支部（059-227-4145）までお問い合わせください。

# 日赤ユース会議への参加とSNSキャンペーンの実施

新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた活動ができなくなってしまっている…。

そんな中でも日赤ユースとして何が出来るかを皆で考えられないかという思いから、「日赤ユース会議」が緊急開催され、三重県赤十字青年奉仕団も含め、全国のユースボランティアら75名がそれぞれの自宅からネットを通じて参加しました。

それぞれの活動状況を共有するとともに、「#みんなで乗り越える」をつけて、今自分ができることを発信するSNSキャンペーンが提案され、現在全国の日赤ユースで取り組んでいます。



## 「新型コロナウイルス感染症の3つの顔」とは？

### 「3つの顔」とは

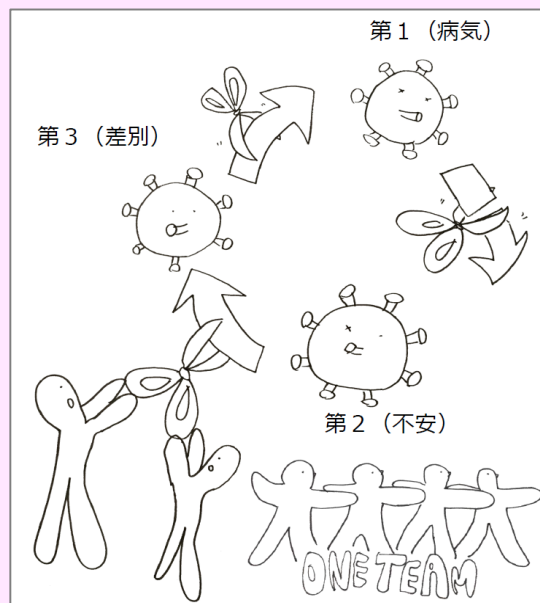
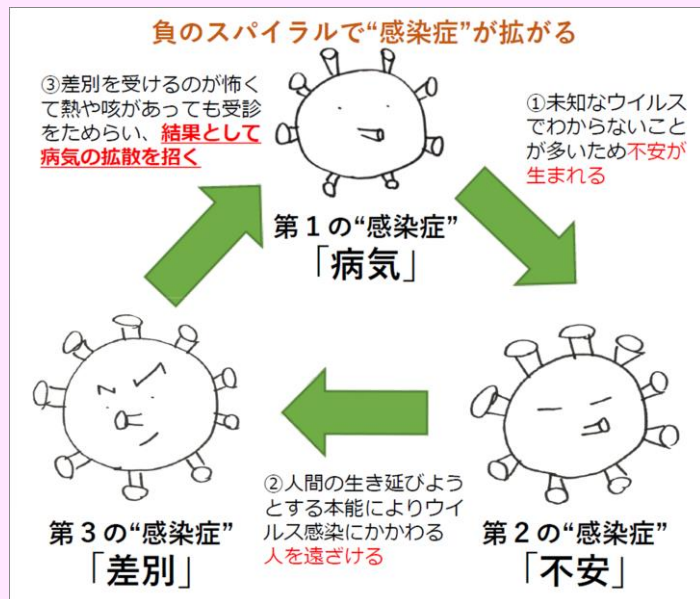
新型コロナウイルス感染症には、実は「3つの“感染症”」としての顔があり、知らず知らずのうちに私たちも影響を受けています。

まず、1つ目の顔は、病気そのものです。

次に、新型コロナウイルス感染症は、目に見えず、まだ分からないことが多いので、私たちは強い不安や恐れを感じます。この「不安・恐れ」が2つ目の顔です。それは私たちの中で膨らみ、瞬く間に人から人へ伝染していきます。

さらに、大きくなった不安や恐れは人間の本能を刺激し、ウイルス感染に関わる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するようになります。この「嫌悪・偏見・差別」が3つ目の顔です。目に見えない敵（ウイルス）を、目に見える特定の対象（〇〇地域の人、医療従事者など）にすり替え、それを敵とみなし嫌悪の対象とすることで、私たちはつかの間の安心感を得ようとするのです。

そして、この感染症の怖さは、①病気が不安を呼び、②不安が差別を生み、③差別の恐れによる受診のためらいが結果として更なる病気の拡散を招く、という「負のスパイラル」を生んでしまうというところにあります。（上図参照）



### 私たちができることは

まず、1つ目の「病気」をふせぐために、手洗い・咳エチケットなどの個々の感染症対策を徹底しましょう。

次に、2つ目の「不安・恐れ」をふせぐために、①一度落ち着いて周りの状況を整理してみる、②リラックスできる時間を作る、などの「気づく力・聴く力・自分を支える力」を高める取り組みをしてみましょう。

最後に、3つ目の「嫌悪・偏見・差別」をふせぐために、差別的な言動に同調せず、医療従事者をはじめとした感染症対応者には嫌悪ではなく敬意を払いましょう。

新型コロナウイルス感染症とのたたかいは長期戦になることも考えられます。それぞれの立場でできることを行い、負のスパイラルを断ち切りましょう！